


## 山 行 報 告 書

山行報告者：加 藤

山 域・山 名： 谷川岳～白毛門（1720m） 日帰り（白毛門のみに変更）	
入山日又は期間：平成30年8月11日（土） 日帰り	
参 加 者	加藤 1名
天候：霧時々雨のち晴れ	 標高 1720m
8月10日 （金）	新宿発夜行バス 23：00
8月11日 （土）	5:00 土合橋バス停着、出発 8:30 白毛門山頂着、休憩、計画変更・往路を戻る 12:00 土合橋バス停着、12:02 バス乗車、水上駅下車 13:14 新前橋行の電車に乗車、帰途につく
装 備 と 食 糧	個人装備：ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、テント一式、シュラフ、シュラフカバー、マット、着替え、コッヘル、ストーブ、カートリッジ、食器、食料、水、ストック、携帯ラジオ、携帯電話、風呂セット、テルモス 個人食： 11日（朝昼夕）、12日（朝昼）、行動食、非常食
感 想 & 要 注 意 事 項	<p>夜行バスで山は初めてだった。スクールバスのような小ぶりのバスは、荒い運転もあって揺れが激しく、空調も効きが極端で蒸し風呂か冷蔵庫。やっと夏風邪が治ったところへ、この前夜泊はそもそも無理だったと反省している。</p> <p>体調管理の甘さがてきめんに出た。</p> <p>登りはじめは霧雨程度だったが、次第に粒が大きくなっていき、白毛門山頂手前は前後10mを残して視界は真っ白になっていた。頭ではこの山域の天候不順は想定内で、雷雨にさえならなければ15時前にはテン場へ着けると踏んでいたし、なにより霧雨にしっかりと濡れているであろう清水峠の辺りの草原をどうしても歩きたかった。</p> <p>しかし体の方が「あたし行かない絶対ムリ！」と叫んでいた。既に喉がはれ上がって声も出ず、体中の関節が痛みだして踏ん張りがきかない。熱があったのか、担ぎ上げた2.5ℓのうち、すでに2ℓを飲み干していた。水が決定的となり、白毛門山頂から下山を決めた。</p> <p>濡れた岩場は下りこそが危険だった。岩の表面に散らばった小さな石の粒が、滑面剤のようによく滑った。ましてフカフカの熱発者。なんでもないところで2度ほど派手にすっ転びながらも、慎重に慎重に何とか無事下山。反省しきりの山行だった。</p>